

香教連速報

人事要

本年度最後の県教委交渉！香教連の要望を伝える！

香教連は、2月3日(火)13:00から県庁12階の第5会議室において、香川県教育委員会との人事要望を行った。香教連側は、田中委員長ほか6名が出席。県教委側は、細松教育長ほか11名が対応した。

主な要望と回答は、以下の通り。**太字は要望項目**、香教連の主張はゴシック、県教委の回答は明朝斜体字、で表記している。

育児・介護等、特別な事情がある場合、通勤の便や通勤距離・時間を十分に考慮した人事異動を行うこと。(通勤距離は15km、通勤時間は30分以内)



【好井執行委員】現在、管理面接で、個人の事情を十分に聞いていただいていること、「人事に関しては長期的な展望に立って行っている」という回答に感謝申し上げる。ただ、平成20年春の異動結果を見ると、希望達成率が低くなっている。確かに、人事異動は、年齢構成や男女比、教科のバランス等、様々な状況を考慮しなければならないだろうが、育児や介護等の特別な事情がある場合は、通勤距離や時間を考慮していただきたい。

【藤本義務教育課長】教職員の希望や健康状態等を考慮しながら、各教育事務所の管理主事が人事面接をしている。全員の希望を100%満たすことは困難である。育児・介護等特段の事情は、考慮しているつもりである。一概に、通勤距離だけで考えることはできない。

強い留任希望や積極的な異動希望等については、本人の意志を最大限尊重すること。



【河野執行委員】強い留任では、その勤務校で引き続き研究を続けたい考えであろうし、また、積極的な異動では、異動希望先の学校で研究を深めたい考えであろう。妥当性のある理由であれば、積極的な異動希望をしている先生の意志を最大限尊重していただきたい。さらに、継続して希望を出している場合は、特段の配慮をお願いしたい。

【藤本義務教育課長】研究意欲があって、異動希望を出していただくことはありがたい。人事異動は、総合的に判断している。本人の希望を全部聞くことができない場合もある。校長や市町の意見を踏まえる必要もあることを、了解いただきたい。



小豆を主たる勤務地域とする者が、地域間交流等を希望する場合、本人の意志を最大限に尊重すること。



【田中委員長】小豆を主たる勤務地域とする先生にとって、2地域を経験するための選択肢が少ないことが不安であることを、多くの先生方から聞いている。小豆を主たる勤務地域とする者が、地域間異動を希望した場合、本人の希望を優先してほしい。

【藤本義務教育課長】地域間人事交流は、教員の資質向上を図ることであり、小豆の先生も、そのような機会が必要であると考ええる。ここ数年は、少数だが、継続して小豆から地域間交流希望が出ている。

「特に、同一校勤務6年以上10年未満の者については、積極的に人事異動を行う」の記述について、十分配慮を行うこと。



【安部副委員長】「教職員の資質能力の向上、学校の活性化の観点から必要」という回答をいただいている。香教連としては、「人事異動の基本的な考え方」であるから、「3年以上経てば異動対象になる」「10年以上経てば必ず異動対象になる」という2つの原則だけでいいのではないかと考えている。

【藤本義務教育課長】の記述は、そろそろ異動を考えてほしいという意識をもってもらいたいこと、そして、市町教育委員会にも知ってほしいという意味がある。

個人面接において、各自の勤務地域数について明示すると共に、3地域以上経験者の勤務環境について検討すること。



【森事務局長】6地域の考え方が浸透しており、本人も経験についてはご存じだと思うが、個人面接で明示していただきたい。後段は、3地域以上経験者の勤務環境について検討していただきたい。地域を多く経験し、資質が向上していると考えられる先生には、本人が望めば、これから必要になってくる主幹教諭や指導教諭として活躍していただく環境等を検討していただければと考えている。

【藤本義務教育課長】毎回確認することは大切であると考えている。2つ以上の地域を経験すれば、もう地域間交流はないという意識になってもらっては困る。3地域以上経験している方がいらっしゃることは承知している。ただ、その経験をもって、主幹教諭等に任用することは考えていない。



講師の現場での実績に対する評価や、過去の採用選考試験実績を考慮した選考になるよう、教員採用選考試験のあり方を検討すること。



【有木人対部長】他県では、1次試験免除の優遇制度が導入されている事例がある。学校現場から考えると、講師経験が豊かで、優秀な人材に勤務してほしい、という強い願いがある。導入されている優遇制度の内容を見ても、優秀な人材を確保したいという願いがよく出ている。勤務時の評価を加味した選考方法を実施もしくは検討している県が14県ある。学校現場での勤務評価は、とても大切であると考える。



【児玉執行委員】様々な優遇制度が考えられるが、例えば「採用選考の1次試験を3年間続けて合格した講師に限り、次年度だけ1次試験を免除する」制度を考えている。これならば、十分な実績であると考えられるし、前年度だけの結果を持ち越すものでもない。また、講師への励みとなるばかりでなく、講師が子供と向き合うことに集中できる、さらには、その学校のためにもなることにつながると思う。

【藤本義務教育課長】各県の動向についての資料を提供いただき、ありがたい。教員採用選考試験は、公平公正に行う必要がある。現時点では、講師での評価を採用試験に反映することは考えていない。2次試験においては、講師経験を生かすことができるのではないかと。中学校は、教科によって採用人数が厳しいことは承知している。現場でがんばっている講師が、採用試験に集中できるよう、各学校で配慮していただければありがたい。

【細松教育長】現場のきめ細かな話を真摯に受け止めたい。現場の先生が気持ちよく、元気を持って、使命感を持ってやっていただくことが大切であり、その基本が人事異動だと考えている。家庭や個人の事情を最大限考えて、人事を行っているつもりである。人事の希望を100%叶えることが難しいということは、了解していただきたい。いろいろな所で経験することで、先生方が伸びる、そのことが香川の教育のためになる、という観点で人事異動を行っていることをご理解いただきたい。今後とも、現場の声を伝えていただければ幸いです。よろしくお願ひしたい。

